

21 地域ゆかりの文化の保存と継承			
20 地域ゆかりの文化の保存と継承			
主管課名	教育部 郷土博物館		
主管課長名	早野 賢二	電話番号	042-481-7656
関係課名 (組織順)	総務課, 環境政策課, 緑と公園課, 都市計画課, 指導室, 社会教育課, 公民館, 図書館		
目的	対象	市民, 文化遺産	
	意図	文化遺産や伝統を次世代に伝え, 郷土への愛着をはぐくむ 文化遺産を保存し, 学習素材やまちづくりに活用する	
施策の方向	地域ゆかりの文化資源や歴史・文化遺産を保存・活用することにより, 次の世代に継承し, ふるさと調布に対する愛着を育みます。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 後期基本計画（令和元年度～令和4年度）の振り返り — 取組実績（DO）

◆ 令和4年度における取組実績の振り返り

<p>施策の成果向上に向けた主な取組実績 【前期基本計画（令和5年度～令和8年度）の基本的取組毎に記載】</p> <p>施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）</p> <p>(21-1 文化財の保存及び活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財保護審議会及び教育委員会における審議を経て, 新たに深大寺所蔵の「黄檗版大般若波羅蜜多經」を市指定文化財に指定した。また, 教育委員会から文化庁への具申を経て, 「旧佐橋家住宅主屋」及び「旧佐橋家住宅門」が国登録有形文化財として登録された。 史跡下布田遺跡整備事業では, 下布田遺跡史跡整備市民ワークショップや国史跡下布田遺跡保存活用整備検討委員会における意見交換, 検討を重ね史跡公園及びガイダンス施設の基本設計を作成した。市民ワークショップでは, 次年度に向けて, 史跡の活用プログラムを検討した。 史跡下布田遺跡の周知啓発のため, 文化財講演会, 自然観察会を実施したほか, 史跡内の維持管理としてヤギによる除草を導入し, 期間中に環境学習イベントを開催するなどの取組により史跡を広く周知した。また, 下布田遺跡整備事業や市民ワークショップの取組を広く周知するため, 「国史跡下布田遺跡史跡整備ニュースレター」を2回発行した。 <p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 史跡下布田遺跡を題材とした総合学習, 遺跡の発掘現場への見学会など布田小学校との学校連携事業の取組を継続した。また, 下布田遺跡で試行したヤギ除草では, 地元の地区協議会, 自治会, 地域福祉コーディネーター, 市民ボランティアの協力を得て, 「ヤギのふれあい環境学習」のチラシを近隣に配布し, 地域交流の機会を提供した。 市内に2箇所所有する国指定史跡（下布田遺跡・深大寺城跡）の周知啓発のため, 公民館と連携し, 巡回展示「国史跡下布田遺跡と深大寺城跡にいてみよう」や講座を実施した。 ■連携テーマ2「にぎわいとるおいのあるまちづくり」 調布市郷土芸能祭ばやし保存会との共催による「第63回調布市郷土芸能祭ばやし保存大会」を開催した。 白鳳仏の来歴に関する最新の学説を紹介する, 調布市, 狛江市, 深大寺と共催の連続講演会・座談会「深大寺白鳳仏の来歴を探る」を開催した。 貴重な縄文遺跡を持つ多摩5市（調布市, 東村山市, 国分寺市, 国立市, 西東京市）で連携し, 縄文の魅力・歴史的意義をPRし, 地域振興及び広域観光の推進に努めることを目的に, スタンプラリーを実施した。 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ヤギ除草については, 近隣小学校や住民への周知や郷土博物館公式ツイッターを活用した情報発信を行ったほか, 新聞にも取り上げられたため, 下布田遺跡のPR効果にもつながった。 <p>(21-2 地域ゆかりの歴史・文化を生かした事業の展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土博物館では, 収蔵品展「調布ゆかりの美術～市川鏡瑠・関野準一郎～」を開催し, 調布ゆかりの木彫工芸作家の市川鏡瑠と版画家の関野準一郎の作品を紹介した。関連事業では, ギャラリートークを開催した。 郷土博物館では, 約60年にわたり調布の風景・建物をペン画・水彩画で描き続けている市内在住の画家中川平一氏から, 1960年以降の作品171点の寄贈を受けるに当たり, 目録の作成やデジタル化など, 寄贈に向けた諸調整を行った。 武者小路実篤記念館では, 春の特別展「人間萬歳一実篤と狂言」は, 作品の生まれた背景等を掘り下げ, 併せて実篤が「狂言」とよぶ喜劇作品を紹介した。秋の特別展では, 「受け継がれてきたもの—武者小路家ゆかりの名品—」として武者小路家に受け継がれてきた貴重な作品・資料やご遺族のもとに残された作品, 愛蔵品を紹介した。 図書館では, 調布市在住のマンガ家つげ義春氏の昨今の世界的評価の高まりやこれまでのご功績と図書館所蔵の資料を広く紹介し利用拡大につなげるため, 「マンガ家・つげ義春と調布」展を実施した。来場者7058人と, 北ギャラリーでは過去にない入場者となった。関連事業として, つげ義春氏原作の「無能の人」の上映会を2回実施した。このほか, 「地域」や「映画」にちなんだゆかりの資料を収集し, 利用に供するとともに, 保存のためのデジタル化を行った。また, 館内では「水木しげる氏関連資料」を展示した。

①横断的連携による施策の推進

- ・郷土博物館では、市内小学3年生を対象とした郷土学習展館外授業（学芸員による出前授業）を18校、24回実施したほか、深大寺水車館の見学対応等を行った。また、新たに調布市に赴任した小・中学校教員を対象とした初任者研修の受け入れを行った。
- ・郷土博物館では、公民館と連携し、お月見団子づくり、昔の農機具と季節の植物等のコラボレーション展示、深大寺地区の歴史や水車等をテーマとして歴史散歩を実施した。
- ・武者小路実篤記念館では、学校連携事業として、ホームページの「学習サポート」ページにおいて、授業に利用しやすい短い動画7本を公開した。

■連携テーマ2「にぎわいとるおいのあるまちづくり」

- ・図書館では、「映画のまち調布 シネマフェスティバル2023」において『出張！映画資料室「ポスターに見る日活・大映の宣伝」』の展示を行った。分館では上映作品の関連作品を集めてコラボ展示を行った。

②調布のまちの魅力発信

- ・郷土博物館公式ツイッターを活用し、郷土博物館の事業や活動、郷土の歴史・文化遺産に関する情報発信を行った。市公式YouTubeチャンネルに古写真を活用して制作した動画「調布今昔写真館 調布駅編」を公開した。
- ・『武者小路実篤名言集 生きるなり』を移動展にあわせて刊行し、全国各地から注文が多く寄せられる程に好評を得ることができた。
- ・図書館では、「水木しげる氏関連資料」の展示、「マンガ家・つげ義春と調布」展及び関連事業「無能の人」上映会の開催、「映画のまち調布 シネマフェスティバル2023」における『出張！映画資料室「ポスターに見る日活・大映の宣伝」』の展示を行った。

◆（参考）令和元年度～令和3年度における施策の成果向上に向けた主な取組実績

- ・計画期間中（令和元年度～令和4年度）は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響があったが、郷土博物館、図書館、実篤記念館では、感染拡大防止策や創意工夫を講じながら各種事業を継続した。また、各施設の機能・役割を生かしながら、「ラクビーワールドカップ2019」、「東京2020大会」の機運を醸成する事業や、「映画のまち調布」の特色を生かした事業を展開し、市民が日常生活の拠点である地域に目を向け、その魅力に改めて気づくことができる機会を創出した。日本で唯一の実篤研究の情報発信基地である実篤記念館では、「新しき村100年」「『白樺』創刊110年」をはじめとした「節目」をとらえた事業を実施し、市の内外に実篤及び実篤記念館の魅力を発信した。

施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）の視点に基づく主な取組実績

①横断的連携による施策の推進

- ・文化庁・東京都・深大寺との連携による国庫補助事業「深大寺近代文書等史料調査」（令和元年度～3年度）
- ・学校教育連携事業の実施（郷土学習展出前授業や下布田遺跡や発掘現場等での授業など）（令和元年度～3年度）
- ・国史跡下布田遺跡を活用した市民協働事業「縄文の杜プロジェクト・千色工房」の開催（令和元年度）
- ・調布市郷土芸能まつりばやし保存会との共催による「調布市郷土芸能祭ばやし保存大会」の開催（令和元年度）
- ・調布史談会との共催による講演会の実施（令和元年度～3年度）
- ・下布田遺跡近隣の小学校と史跡の理解・愛着を深める総合学習に通年で取り組む（令和2年度）
- ・東京都埋蔵文化財センターが実施する染地遺跡の発掘調査で発見された出土品展示見学会に協力（令和3年度）
- ・世田谷区立郷土資料館と連携した企画展の開催（令和3年度）

②調布のまちの魅力発信

- ・郷土博物館において、深大寺そば祭り関連事業として、深大寺水車館におけるそば粉ひき実演を実施（令和元年度）
- ・実篤記念館において日本ラグビー史関連の特別展を開催（令和元年度）
- ・郷土博物館において企画展「1964年東京オリンピックを振り返る～収蔵品を中心に～」の開催（令和2年度）
- ・実篤記念館において企画展「実篤、欧米へ行くーベルリン観戦と美術行脚ー」の開催（令和2年度）
- ・郷土博物館において、企画展「調布にオリンピックがやって来た！～1964年あの頃～」のほか、1964年の聖火ランナーをゲストに迎えた関連イベントを実施（令和3年度）
- ・図書館では、「映画のまち調布 シネマフェスティバル2022」において『出張！映画資料室「さあ、映画を見に行こう～調布の映画館の今昔～」』の展示を、分館では上映作品の関連作品を集めてコラボ展示を実施。このほかトークイベント「映画人が語る 旧日活・大映村の日々」を実施（令和3年度）
- ・実篤記念館では、秋の特別展「実篤と映画」関連事業として、小説「愛と死」を原作とした日活映画「世界を懸ける恋」の上映会を実施（令和3年度）

◆まちづくり指標の現状把握

まちづくり指標	単位	実績値				目標値	指標の推移※
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和4年度	
1 文化遺産の数（国・都・市指定等文化財）	件	76	77	78	81	79	◎
2 郷土博物館・実篤記念館の合計入館者数（実篤公園利用者含む） （基準値は、平成25～29年度の平均値）	人	4万6,033	3万3,273	3万4,300	3万8,606	5万5,000	○

※令和4年度における指標の推移は、以下の区分により記号を記入

- ◎：目標値を達成 ○：目標値を未達成（前年度より向上した） ▼：目標値を未達成（前年度より低下した） ⇒：目標値を未達成（前年度と同じ）
—：数値未把握（調査未実施など）

◆ 指標でみる後期基本計画期間内（令和元年度～令和4年度）の達成状況

各指標の達成状況及び説明	
No.	指標名 文化遺産の数（国・都・市指定等文化財）
説明（目標達成・未達成の要因，課題，今後の取組の方向等）	
1	文化遺産の数（国・都・市指定等文化財）
<<目標達成の要因>> 年1件程度を目標に調査審議を重ねたため <<今後の取組の方向>> 多様な主体との連携を図りながら，文化財の「保存」とともに，郷土への愛着を育み，地域の活力の向上に資する「活用」の取組を展開する。 国史跡下布田遺跡整備事業が，保存と活用のマネジメントの好事例となるよう各種取組を進める。	
2	郷土博物館・実篤記念館の合計入館者数（実篤公園利用者含む）
<<目標未達成の要因>> 新型コロナウイルスの影響のため なお，令和4年度は，新たな事業（下布田遺跡関係の各種事業，縄文遺跡を持つ多摩5市との連携事業，深大寺や公民館との共催事業）のほか，3年ぶりの開催となる郷土芸能まつりばやし保存大会の開催などを積極的に展開し，令和3年度から4306人，令和2年度から5333人と，まちづくり指標を回復させた。 <<今後の取組の方向>> 指標の回復が今後の課題。郷土博物館では，令和6年度に開館50周年を迎えるタイミングを生かし，2階常設展や1階ロビーの展示内容の変更，深大寺水車館を活用した事業の再開，講座・講演会等各種事業の積極的な展開などにより，目標値の達成を目指す。	

≪参考≫前期基本計画（令和5年度～令和8年度）における「まちづくり指標」

まちづくり指標	まちづくり指標の考え方	単位	基準値	目標値
文化遺産の数（国・東京都・市指定等文化財）	後世に残すべき文化遺産のうち，優先度の高いものから順次指定の手続きを進め，毎年度1件程度の指定を行うことを目標とした。	件	78 令和3年度	84 令和8（2026）年度
郷土博物館・実篤記念館の入館者数・事業参加者数（実篤公園利用者を含む）	地域ゆかりの文化資源や歴史・文化遺産に触れる場である両施設における各種取組を継続することにより，現状の入館者数・事業参加者数を増加させることを目標とした。	人	4万1,014 令和3年度	5万5,000 令和8（2026）年度

2 令和4年度の振り返り及び後期基本計画（令和元年度～令和4年度）の取組状況 — 評価（CHECK）

◆ 施策の成果向上に向けて，令和4年度及び後期基本計画（令和元年度～令和4年度）に実施した取組に対する評価

総合評価 (令和4年度)	A	S：「実施した取組において顕著な取組成果が得られた。」 A：「実施した取組において予定した取組成果が得られた。」 B：「実施した取組において一定程度の取組成果が得られた。」 C：「実施した取組においてあまり成果が得られなかった。」 D：「実施した取組において成果が得られなかった。」
総合評価理由	令和4年度における施策の成果についての総括（総合評価の理由） <ul style="list-style-type: none"> 郷土博物館では，新たな事業（下布田遺跡関係の各種事業，縄文遺跡を持つ多摩5市との連携事業，深大寺や公民館との共催事業）を積極的に展開したほか，新型コロナウイルスの影響により2年間中止としてきた郷土芸能祭ばやし保存大会を再開したことなどにより，令和3年度から4306人，令和2年度から5333人とまちづくり指標（郷土博物館・実篤記念館の合計入館者数（実篤公園利用者含む））を回復することができた。国史跡下布田遺跡整備事業では，整備基本設計を行うとともに，ソフト面では市民協働事業としても展開してきており，地域の活力の向上にも寄与する文化財の保存と活用の好事例として発展しつつある。 実篤記念館では，春の特別展「人間萬歳—実篤と狂言—」において，作品の生まれた背景等を掘り下げ，併せて実篤が「狂言」とよぶ喜劇作品を紹介した。秋の特別展では，「受け継がれてきたもの—武者小路家ゆかりの名品—」として武者小路家に受け継がれてきた貴重な作品・資料やご遺族のもとに残された作品，愛蔵品を紹介した。学校との連携事業では，ホームページの「学習サポート」ページにおいて，授業に利用しやすい短い動画を7本を公開した。また，『武者小路実篤名言集 生きるなり』を移動展にあわせて刊行し，全国各地から注文が多く寄せられる程に好評を得ることができた。 図書館では，「映画のまち調布 シネマフェスティバル2023」における展示や地域ゆかりのマンガ家である水木しげる氏やつげ義春氏をテーマとした調布市の魅力を発信につながる取組を展開した。「マンガ家・つげ義春と調布」展及び関連事業「無能の人」上映会の開催では，大変多くの入場者を迎え，新たな調布の魅力の1つとして発信することができた。 	

<p>総括評価 (令和元年度から令和4年度)</p>	<p style="font-size: 2em; text-align: center;">A</p>	<p>S:「計画期間中に実施した取組において顕著な取組成果が得られた。」 A:「計画期間中に実施した取組において予定した取組成果が得られた。」 B:「計画期間中に実施した取組において一定程度の取組成果が得られた。」 C:「計画期間中に実施した取組においてあまり取組成果が得られなかった。」 D:「計画期間中に実施した取組において成果が得られなかった。」</p>
<p>総括評価理由</p>	<p>後期基本計画（令和元年度～令和4年度）における施策の成果についての総括（総括評価の理由）／今後に向けた課題・懸案事項</p> <p>（総括）</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画期間中（令和元年度～令和4年度）は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響があったが、郷土博物館、実篤記念館、図書館では、市民の学びを止めることの無いよう、感染拡大防止策及び事業の創意工夫を講じながら各種事業を継続した。また、各施設の機能・役割を生かしながら、「ラクビーワールドカップ2019」、「東京2020大会」の機運を醸成する事業や、「映画のまち調布」の特色を生かした事業を展開するとともに、調布市名誉市民水木しげる氏やつげ義春氏の作品など地域ゆかりの著名人の功績を生かした魅力発信を行った。これらの取組により、市民が日常生活の拠点である地域に目を向け、その魅力に改めて気づくことができる機会を創出した。 郷土博物館では、学校教育の学習内容に即した展示や出前授業、市内文化財の指定・登録、郷土博物館芸能祭りばやし保存大会、深大寺など多様な主体との連携事業、他市との連携事業などを積極的に展開した。資料の収集、保存、調査・研究、展示・普及を軸とした基本機能を発揮し、既知と未知、知識と経験、人びとをつなぐ役割を着実に果たすことで、地域を再認識するきっかけづくり、郷土愛の醸成に寄与した。また、国史跡下布田遺跡整備事業では、市民協働事業として創意工夫を凝らし、史跡の周知や地域の活力の向上につながる取組を展開した。 実篤記念館では、武者小路実篤の多面的な魅力を伝えるべく、『白樺』創刊110年、開館35年を迎え、収集活動の成果となる「実篤記念館収集名品展」など「節目」をとらえた展示事業を実施し、一度として同じものが無い、いつも新しいテーマの展示を提供してきた。また、学校との連携事業の実施や、授業に利用しやすいコンテンツの作成・公開を行った。そのほか、物販では、『実篤チョコレート』の販売、『武者小路実篤名言集 生きるなり』を刊行するなど、日本で唯一の実篤研究の情報発信基地として、実篤記念館の魅力を広く発信した。 図書館では、「映画のまち調布 シネマフェスティバル」における展示や地域ゆかりのマンガ家である水木しげる氏やつげ義春氏をテーマとした調布市の魅力を発信につながる取組を展開した。「マンガ家・つげ義春と調布」展及び関連事業「無能の人」上映会の開催では、大変多くの入場者を迎え、新たな調布の魅力の1つとして発信することができた。 <p>（課題・懸案事項）</p> <ol style="list-style-type: none"> 郷土博物館機能の在り方や方向性の整理 調布市遺跡調査会の体制見直しの検討 国史跡下布田遺跡整備事業の推進に伴う郷土博物館分室の解体（令和6年度）、調布市遺跡調査会の移転、郷土博物館分室内の資料等の廃棄・移転、中央自動車道橋梁耐震補強等に伴う文化財資料室の資料等の移転 近藤勇生家跡の保存・活用 国登録有形文化財真木家住宅の保存・活用 	

3 中長期的な施策の方向（2030年代を見据えた方向） — (ACTION)

◆施策を取り巻く状況（国、東京都・近隣自治体の動向など）を踏まえた取組の方向

・右欄は左欄に対応する丸数字を記載

全国的な潮流・傾向等	市政に与える影響	左記を踏まえた市の対応課題・取組の方向
	<p>◆文化財保護法の改正（H31. 4.1 施行）</p> <p>①市町村は、都道府県が策定する文化財の保存・活用に関する総合的な施策の大綱を草案し、「文化財保存活用地域計画」を作成し、国の認定を申請できることになった。計画に基づく、文化財の保存・活用に関する継続性・一貫性ある取組や地域社会総がかりによる取組が期待されている。</p> <p>◆博物館法の改正</p> <p>②博物館の事業に「博物館資料のデジタルアーカイブ化（電磁的記録の作成と公開）」、「学芸員等の人材の養成及び研修を行うこと」が追加された。市民の「知る権利」の保障やデジタル化された資料の積極的活用と共有、インターネットを通じた教育・コミュニケーション活動などの取組が期待されている。</p> <p>③地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を回り地域活力の向上に取り組むことを努力義務とした。学習支援機関として、交流、市民参画・連携などの取組が期待されている。</p>	<p>◆文化財保護法の改正（H31. 4.1 施行）</p> <p>①現在、東京都の大綱の作成は確認できていないため、次期計画期間中は、東京都及び都内市区町村の動向を注視していく。</p> <p>◆博物館法の改正</p> <p>②郷土博物館では、収蔵資料の調査・研究、データベース登録、公開を推進する。実篤記念館では、所蔵データのICT教育への活用、解説のデジタル化等を推進する。また、情報提供システムのリニューアルを行い、デジタル情報の活用と、アーカイブの充実、新たな時代のニーズに合わせた事業展開を進めていく。</p> <p>③郷土博物館では、引き続き、多様な主体との連携を図りながら、市内の回遊性向上が図られるような様々な取組を進める。実篤記念館では、地元民間事業者、大学との連携を図り、新たな魅力を発信していく。</p> <p>④郷土博物館及び実篤記念館では、東京都教育委員会の定める基準に適合させるとともに、登録申請を行</p>

東京都や近隣自治体の動向等	<p>④現状では、調布市郷土博物館は、博物館として登録されているが、今後の登録には申請が必要となる。登録の申請に当たっては、博物館資料の収集、保管及び展示並びに博物館資料に関する調査研究を行う体制、学芸員その他の職員の配置並びに施設及び設備が東京都教育委員会の定める基準に適合するとともに、1年を通じて150日以上開館する必要がある。 ※既に登録されている博物館は施行から5年間は登録博物館とみなす。</p>	<p>う。 ※実篤記念館は、現在、登録博物館ではないが、登録することにより、全国的な博物館として信頼を確保し、事業全般にわたり充実を図っていく。</p> <p>⑤郷土博物館及び実篤記念館では、立地する地域特有の問題（浸水想定区域、土砂災害警戒区域等）に取り組み、防災・減災を図るとともに、適切な保存環境及び施設・設備を確保し、将来にわたり貴重な作品・資料を後世に残し、活用していく。</p>
	<p>⑤令和元年の台風19号により、川崎市市民ミュージアムの収蔵資料が甚大な被害を受けた。改めて自然災害への備えについて検討するきっかけとなった。</p> <p>⑥縄文の遺跡を持つ調布市、東村山市、国分寺市、国立市、西東京市による連携事業を推進していく（令和4年度から令和8年度までの多摩・島しょ広域連携活動助成金事業）</p>	<p>⑥貴重な縄文遺跡を持つ多摩5市で連携し、縄文の魅力・歴史的意義をPRするとともに、地域振興及び広域観光の推進に努める。</p> <p>◆施策に関する重要な視点</p> <p>⑦郷土博物館の今後の課題整理等を行いながら、郷土博物館機能の在り方や方向の整理に取り組む。また、庁内横断的な連携の下、公共施設マネジメントの観点も含め、施設的な課題についても多角的に検討する。</p> <p>⑧実篤公園の整備、旧実篤邸の保存・活用、実篤記念館とのより一体的な事業展開・管理を推進する。博物館施設に求められる機能の高度化に伴い、施設・設備計画の策定、基本設計等を計画的に進めていく。</p>
その他	<p>◆施策に関する重要な視点</p> <p>⑦今後の郷土博物館機能や施設的課題の、博物館協議会・顧問制度の在り方などについて検討を進める必要がある。</p> <p>⑧実篤公園・旧実篤邸の整備、保存、活用と、実篤記念館とのより一体的な事業展開・管理を推進する必要がある。また、時代に即応した施設・設備の整備計画等について検討を進める必要がある。</p>	

◆前期基本計画期間（令和5年度～令和8年度）における中長期的な取組の方向

<p>1 課題・懸案事項を踏まえた取組の方向</p> <p>①郷土博物館機能の在り方や方向性の整理 令和5年度は、郷土博物館職員において、郷土博物館の機能、役割、運営方針、収蔵資料、施設等に関する現状と課題の整理を行う。令和6年度以降に検討会を設置し検討する。</p> <p>②調布市遺跡調査会の体制見直しの検討 行革プラン「プラン10 監理団体等の活用・連携の強化」の取組として、効果的・効率的な事業運営のための調布市遺跡調査会の体制見直しを検討する。</p> <p>③国史跡下布田遺跡整備事業の推進に伴う郷土博物館分室の解体（令和6年度）、調布市遺跡調査会の移転、郷土博物館分室内の資料等の廃棄・移転、中央自動車道橋梁耐震補強等に伴う文化財資料室の資料等の移転 調布市遺跡調査会の体制見直しとともに、効果的・効率的な資料等の廃棄・移転方法を検討する。</p> <p>④近藤勇生家跡の保存・活用 近藤勇生家跡地の保存・活用に向けた取組を推進する。</p> <p>⑤国登録有形文化財真木家住宅の保存・活用 建造物や樹木等の適切な保存を継続するとともに、活用検討を前進させるに当たっては推進体制を確保する。</p> <p>2 重点的に取り組むべき事項等</p> <p>・上記の課題・懸案事項のほか、調布市基本計画（令和5年度～令和8年度）、調布市教育プラン（令和5年度～令和8年度）、調布市社会教育計画（令和5年度～令和8年度）に掲げた内容について、重点的に取り組む。</p> <p>≪21-1 文化財の保存及び活用≫</p> <p>◆文化財の保存・活用</p> <p>・文化財保護審議会の調査審議に基づく文化財の保存・活用の取組を基盤に、郷土芸能の保存・継承や、東京文化財ウィークへの参画による市内に所在する指定文化財の公開機会の拡大等に取り組むとともに、文化財見学会、講演会等を実施する。</p> <p>・国登録有形文化財（建造物）である真木家住宅について、建造物や樹木等の適切な保存を継続するとともに、活用に向けた検討を行う。</p> <p>◆国史跡下布田遺跡の整備・活用</p> <p>・国史跡下布田遺跡と隣接するガイダンス施設の整備に向けた取組を推進します。また、市民ワークショップの開催を通じて、史跡の保全と活用の「担い手づくり（ボランティアの育成）」に取り組む。</p> <p>≪21-2 地域ゆかりの歴史・文化を生かした事業の展開≫</p> <p>◆郷土の歴史・文化遺産や地域ゆかりの著名人の文化・芸術活動等を生かした事業の展開</p> <p>・郷土博物館においては、郷土の歴史や文化に関する資料の収集、保存、調査・研究を行うとともに、令和6年には開館50周年を記念する事業を実施するほか、学校教育の学習内容に即した展示や出前授業等、学校と連携した教育普及事業を推進する。</p> <p>・「博物館法の一部を改正する法律」の趣旨を踏まえ、収蔵資料データベースの整備・公開を推進するとともに、博物</p>
--

館事業が、「多様な主体との連携・協力」「文化観光」の視点からも実践され、地域の活力の向上に寄与できるよう取り組む。

・図書館においては、調布市ゆかりの水木しげる氏やつげ義春氏等、著名な作家の関連資料、市内映画産業に関連した映画資料の収集、保存、活用を図る。

◆武者小路実篤記念館を中心とした事業の推進

・令和7年の開館40周年を記念する事業を実施するほか、情報提供システムのリニューアル、博学連携プログラムの推進、収蔵品の整理・保存・修復や、実篤公園・旧実篤邸との一体的な事業展開及び展示・収蔵設備の整備計画の策定に取り組む。

施策の推進，成果向上の視点を踏まえた具体的な取組

デジタル技術の活用	・郷土博物館の収蔵資料データベースの整備・公開とYouTube やSNS による情報発信を進める。また、武者小路実篤記念館においては、情報提供システムの整備・公開，所蔵データをICT 教育に用いるなど，デジタル技術を活用した取組を推進する。
共創のまちづくり	・多様な主体と連携し，文化財行政や博物館行政を推進する。
脱炭素社会の実現	・郷土博物館や武者小路実篤記念館の施設運営において，省エネルギー化の推進及び再生可能エネルギーの利用促進に努める。
フェーズフリー	・フェーズフリーの視点を踏まえ，災害時を想定した施設整備及び収蔵資料データベースの整備を行う。

施策 2 1 「地域ゆかりの文化の保存と継承」に関連する基本計画事業

前期※	計画コード	68	重点P	—			
	事務事業	国史跡下布田遺跡整備事業の推進				総合戦略	●
後期※	計画コード	63	重点P	—			
	事務事業	国史跡下布田遺跡の整備・活用				総合戦略	●
所管部署 教育部 郷土博物館 文化財係							
事業概要 下布田遺跡は、縄文時代晩期の複雑な社会構造を究明する上で重要な遺跡として評価され、昭和62年に国史跡に指定された。3度にわたる追加指定を経て、現在の指定面積は1万2772.14㎡（公有化率93.35%）である。平成30年度に整備の基本理念となる保存活用計画を策定し、令和2年度に具体的方針を定めた整備基本方針を策定した。 保存活用計画・整備基本計画に基づき、貴重な史跡を保全するとともに、市民のための史跡公園開園に向けて整備事業を推進する。							

※前期の欄には、前期基本計画（令和5年度～令和8年度）、後期の欄には後期基本計画（令和元年度～令和4年度）の内容を表記しています。

【PLAN▶DO▶CHECK】

活動内容（事業費ベース）	計画目標	令和4年度		
		（計画）	（当初予算）	（決算・実績）
活動内容（事業費ベース）	○測量委託の実施 ○学校連携事業の実施 ○史跡内学術調査の実施 ○地権者交渉（用地取得） ○用地取得 ○史跡の保存管理と周知	○保存・整備に関する検討 ○史跡の保存管理と周知 ○史跡整備実施設計	○基本設計委託実施（新規） ○保存活用整備検討委員会の開催3回（拡充） ○市民協働事業の実施（市民ワークショップ定期開催（拡充）） ○協働イベント縄文の杜プロジェクト開催（継続） ○国史跡下布田遺跡史跡整備ニュースレター発行（継続） ○学校連携事業の実施（継続） ○史跡内学術調査の実施（継続） ○史跡周知のための公民館3館巡回展示（新規） ○保存管理のための除草作業（拡充）	○基本設計委託実施 ○保存活用整備検討委員会の開催（3回） ○市民協働事業の実施（市民ワークショップ開催。8回実施） ○国史跡下布田遺跡史跡整備ニュースレター発行（第3・4号） ○学校連携事業の実施（授業2回実施） ○史跡内学術調査の実施 ○史跡周知のための講演会・見学会実施（文化財講演会、講師派遣、見学会を各1回実施） ○史跡維持管理・周知のため、ヤギ除草を実施（期間中、ふれあい環境学習イベントを2回実施） ○北多摩縄文スタンプラリー開催
	事業費（千円）	12,365	42,313	42,056
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0

令和4年度取組実績	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり	<input type="checkbox"/> 計画遅れ	<input type="checkbox"/> 計画前倒し	実績評価	<input type="radio"/>
-----------	---	-------------------------------	--------------------------------	------	-----------------------

説明	<p>整備基本設計を実施した。 下布田遺跡保存活用整備検討委員会を開催し、基本設計の審議を行った。 下布田遺跡史跡整備市民ワークショップを開催し、基本設計に市民意見を反映させたほか、史跡の活用プログラム検討等に取り組んだ。 学校連携事業として、下布田遺跡近隣の小学校と史跡への理解・愛着を深める総合学習授業を実施した。 史跡の詳細確認調査により、史跡東側墓域の状況を明らかにするための調査を実施した。 普及活動として、文化財講演会及び現地見学会、講師派遣を実施したほか、「国史跡下布田遺跡史跡整備ニュースレター」（第3号、第4号）を発行し、広く周知を図った。 その他、史跡の維持管理としてヤギ除草を実施し、期間中にふれあい環境学習イベントも2回開催し、史跡の周知に努めた。</p>
----	--

【ACTION】

今後の方向	<input type="checkbox"/> 現状継続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善
-------	---

今後の取組の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う極めて厳しい財政危機の中で、基本計画の推進に遅れが生じたこととなったが、計画を見直し、開園を令和8年度から令和9年度予定とした。今後は次の取組を行い、基本計画の着実な推進に取り組むこととする。 ・基本設計を踏まえた実施設計の作成及び工事の実施に向けて、事業運営を計画的かつ効率的に実施する。 ・史跡整備市民ワークショップを継続的に開催し、史跡への理解・愛着を育み、保存と活用の担い手づくりに取り組む。また、史跡下布田遺跡を活用した体験学習会・見学会等の各種普及啓発事業を市民協働事業として継続して実施する。 ・学校連携授業としては、布田小学校など近隣の学校において、下布田遺跡を教材とした総合学習を実施することで、地元の史跡への興味関心を醸成する。 ・史跡における学術調査を実施し、遺跡の性格の解明に寄与する。 ・史跡の公有地化を進めるため、建物移転補償を伴う地権者との交渉を継続する。 ・史跡の適切な維持管理を行う。
----------	--

施策 2 1 「地域ゆかりの文化の保存と継承」に関連する基本計画事業

前期※	計画コード	69	重点P	—			
	事業概要	郷土の歴史・文化を核とした博物館事業の推進				総合戦略	●
後期※	計画コード	64	重点P	—			
	事業概要	郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進				総合戦略	●
所管部署 教育部 郷土博物館 事業管理係							
事業概要 ・常設展示「調布の歴史」のほか、企画展・移動展等の展示事業、講座・講演会・体験学習会等の普及事業を推進する。 ・郷土の歴史・文化に関する資料の収集、保管、調査研究を行い、収蔵資料データベースの整備・公開を進めるとともに、調査研究の成果を反映した刊行物の発行や、ホームページ、市公式YouTubeチャンネル、SNS等を活用した情報発信を行う。 ・学校教育の学習内容に即した展示や出前授業等、学校と連携した教育普及事業を推進する。 ・郷土博物館の今後の在り方や方向性を検討する。							

※前期の欄には、前期基本計画（令和5年度～令和8年度）、後期の欄には後期基本計画（令和元年度～令和4年度）の内容を表記しています。

【PLAN▶DO▶CHECK】

活動内容 (事業費ベース)	計画目標	令和4年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○展示・普及事業の推進 ○「子どもはくぶつかん」の推進 ○学習機会についての情報発信 ○学校教育連携事業の推進	○展示・普及事業の実施 ○「子どもはくぶつかん」の実施 ○学習機会についての情報発信 ○学校教育連携事業の実施	○展示・普及事業の実施 ○「子どもはくぶつかん」の実施 ○学習機会についての情報発信 ○学校教育連携事業の実施	○展示・普及事業の実施 ○「子どもはくぶつかん」の実施 ○学習機会についての情報発信 ○学校教育連携事業の実施
事業費 (千円)		3,199	2,442	2,081
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0

令和4年度取組実績	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり	<input type="checkbox"/> 計画遅れ	<input type="checkbox"/> 計画前倒し	実績評価	◎
-----------	---	-------------------------------	--------------------------------	------	---

説明	展示事業・普及事業を実施することにより、郷土の歴史・文化遺産の活用に取り組んだ。 展示事業では、常設展示、収蔵品展（1回）、郷土学習展（2回）、ギャラリー展（5回）、公民館及び武者小路実篤記念館での移動展（2回）、市立第三中学校での「歴史の部屋」を開催した。普及事業では、収蔵品展ギャラリートーク、子どもはくぶつかん（2回）、夏休み体験事業、地域文化講演会、古文書講座、出前講座等を実施した。 学校連携事業として、市内小学3年生を対象とした郷土学習展館外授業（学芸員による出前授業）を23回及びオンラインを活用したりリモート授業を1回実施した。また、新任教員を対象とした初任者研修の受入れを行った。 「郷土博物館だより」（2200部）、収蔵品展の展示パンフレット等を発行したほか、郷土博物館Twitterを運用し、地域の歴史・文化遺産について情報発信を行った。
----	---

【ACTION】

今後の方向	<input type="checkbox"/> 現状継続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善
-------	---

今後の取組の方向	・郷土の歴史や文化に関する資料の収集、保存、調査・研究を行うとともに、令和6年の開館50周年を記念する事業を実施する。また、開館から50年近く経過する中で、郷土博物館の在り方や方向性を整理する。 ・深大寺地区や市内に点在する歴史・文化資源を活用した「文化観光」の取組を推進する。 ・多様な主体との連携・協力による地域の活力の向上に資する博物館事業を推進する。 ・収蔵資料データベースの整備・公開、公式YouTubeチャンネルやSNSを活用した情報発信をする。 ・引き続き新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、学校教育の学習内容に即した展示や出前授業等、学校と連携した教育普及事業を実施する。 ・失われるおそれのある郷土の歴史・文化の記録作成を行う。
----------	---

施策21「地域ゆかりの文化の保存と継承」に関連する基本計画事業

前期※	計画コード	70	重点P	—			
	事務事業	武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開				総合戦略	●
後期※	計画コード	65	重点P	—			
	事務事業	武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開				総合戦略	●
所管部署 教育部 郷土博物館 事業管理係							
事業概要 武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開により、展示会や教育・普及事業で魅力ある事業を実施し、地域ゆかりの貴重な文化的遺産を後世に伝えるために、収蔵品の整理、保存、修復等を行う。情報提供システムでは、作品や資料のデジタルデータを有効的に活用・整備し、また、アーカイブの充実を図ることで、収蔵品、実篤に係る情報を、時代のニーズに合わせ広く情報提供するとともに、事業全般に活用する。この事業を通して、実篤研究の情報収集発信機能の充実を図り、地域教育・文化の向上へ貢献するとともに、全国へ特色ある事業の魅力を発信する。							

※前期の欄には、前期基本計画（令和5年度～令和8年度）、後期の欄には後期基本計画（令和元年度～令和4年度）の内容を表記しています。

【PLAN▶DO▶CHECK】				
活動内容（事業費ベース）	計画目標	令和4年度		
		（計画）	（当初予算）	（決算・実績）
事業費（千円）	○展示活動の実施 ○教育・普及事業の実施 ○武者小路実篤を核とした特色ある事業を充実させ、地域教育・文化向上へ貢献し、全国へ特色ある事業の魅力を発信 ○収蔵品の整理・保存・修復、複製の制作、公開・活用 ○情報提供システムの更新 ○情報提供システムの充実	○展示活動の実施 ○教育・普及事業の実施 ○収蔵品の整理・保存、修復、複製の制作、公開・活用 ○情報提供システムの更新 ○情報提供システムの更新検討	○展示活動の実施 ○教育・普及事業の実施 ○収蔵品の整理・保存、修復、複製の制作、公開・活用 ○情報提供システムの更新 ○情報提供システムの更新検討	○展示活動の実施（特別展2回、企画展4回）（移動展1回） ○教育・普及事業の実施（延べ65件） ○収蔵品の整理・保存・修復、複製の制作、公開・活用 ○情報提供システムの運営検討
	16,195	15,878	17,002	
債務負担行為等による用地取得費	0	0	0	
令和4年度取組実績	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し 実績評価 ◎			
説明	展示事業では、特別展2回と企画展4回、移動展1回を開催した。春の特別展「人間萬歳－実篤と狂言－」では、作品の生まれた背景を掘り下げるとともに、実篤が「狂言」と呼ぶ喜劇作品を紹介した。秋の特別展では、「受け継がれてきたもの－武者小路家ゆかりの名品－」として、武者小路家に受け継がれてきた貴重な資料やご遺族のものに残された実篤の作品・愛蔵品を紹介した。また、記念館の改修工事のために臨時休館した期間中に実施したたづくり展示室での移動展では、あわせて『武者小路実篤名言集 生きるなり』を刊行した。そのほか、期間限定のYouTube配信やオンラインによるライブ配信を実施した。 学校との連携事業では、パネル展示のほかホームページに設けた「学習サポートページ」のコンテンツの充実を図り、授業に利用しやすい短い動画を7本公開した。 コロナ禍において、前年度は利用者が減少したものの今年度は回復傾向に転じ、実篤記念館の利用者は6451人（前年度比694人の増）となった。			
【ACTION】				
今後の方向	<input checked="" type="checkbox"/> 現状継続 <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善			
今後の取組の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・実篤記念館における来館者数の更なる増加を目指し、展示、講座等の企画や、他団体との共催及び記念館のPRに効果的なグッズの作成を計画的に行うことで、実篤研究に基づく情報発信機能を発揮していく。 ・引き続き新型コロナウイルスの感染防止対策を行いながら、対応緩和後の内容について創意工夫を図りながら実施していく。 ・情報提供システム（収蔵品データベース、情報閲覧システム、映像視聴システム、ホームページ）については、技術の進歩と情報利用の環境変化、時代のニーズを踏まえてリニューアルを図っていく。 ・（一財）武者小路実篤記念館は、市から委託を受け実篤公園の日常管理を行うとともに、市からの指定を受けて記念館の指定管理業務を行っていることから、実篤公園について、指定管理事業と連携してより一体的な活用を検討していく。 			